

東海・東南海地震の被害予測

表は、愛知県が平成15年3月に作成した「愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査報告書」によるものです。東海・東南海連動地震が発生したと想定した場合、それだけの地震が単独で発生する場合よりも被害はさらに大きくなります。

建物の全壊棟数は約10万棟、火災による焼失棟数は約49,000棟、人的被害は、冬早朝の午前5時（阪神・淡路大震災と同様の時間帯で、多くの人が自宅で就寝中と見られる）を想定した場合、死者約6,840人と予測されています。阪神・淡路大震災の死者約5万人を上回る大きな被害です。

また、広範囲にわたって水道、ガスが止まり、全県規模で停電となります。想定東海・東南海連動地震などの大規模地震災害の場合は、被害が広域化するため、全国からの応援が駆けつけることが難しくなったり、激甚被災地に応援が集中するなどの問題発生も考えられ、場合によっては復旧が長期化するおそれもあります。



とても大きな被害になるのよ



起きたらどうなるの？

想定東海・東南海地震 主な被害予測結果

想定項目	東海・東南海連動地震 (想定M8.27)
建物被害	全壊棟数 約98,000棟
	半壊棟数 約230,000棟
火災 (18時)	出火件数 約1,200件
	焼失棟数 約49,000棟
	死者数 約2,400人
人的被害 (冬早朝5時)	負傷者数 約66,000人
	帰宅困難者数 約980,000人
避難所生活者数 (1日後)	約780,000人

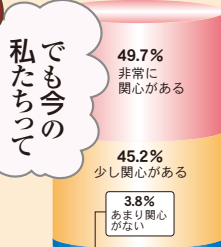
わたしたちの防災意識

愛知県では、県民のみならず、防災意識や防災対策の実態を把握し、今後の地震防災対策を検討する上での基礎資料を得るために、平成20年1月に「防災地震」に対する意識調査を実施しました。

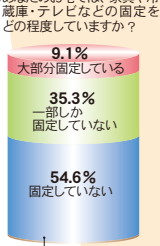
東海・東南海地震への関心があると答えた人は95%では、ほとんどの人が関心を持っています。しかし、家具などを固定していない人が55%もいます。また、市町村の実施した無料耐震診断を「知っている」と答えた人は79%いるにもかかわらず、実際に耐震診断を受けた人はそのうち29%に過ぎません。

非常用食料や飲料水の備蓄については、6割以上の人が1日分程度の備蓄を心がけていますが、被災して必要とされる3日分以上は食料29%、飲料水26%と大きく減少してしまいます。

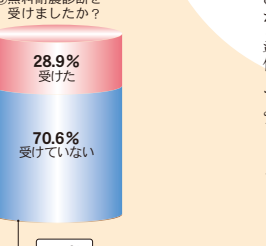
①あなたは、東海地震や東南海地震に関心がありますか？



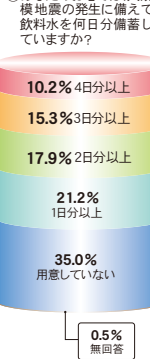
②あなたのお宅では、家具や冷蔵庫・テレビなどの固定をどの程度していますか？



③無料耐震診断を受けましたか？



④あなたのお宅では、大規模地震の発生に備えて飲料水を何日分備蓄していますか？



2 家具の固定

第二に、家の中の危険な箇所を点検しましょう。本棚・タンス・食器棚、冷蔵庫等を固定し、倒れないようにします。また窓ガラスには飛散防止フィルムを貼って、破片の飛散を防ぎます。

寝室や部屋の出入り口付近に背の高い家具を置かない等、家具の配置を見直すことから始めましょう。

また、つばや棒や耐震用粘着マット等、壁を傷つけずに使用できる簡易な家具固定用グッズもあります。



3 非常持出品の用意

第三に、食料や飲料水、医薬品、衣料類、日用品等を非常持ち出し袋にまとめ、準備しておきましょう。地震発生後、水道・ガス・電気等のライフラインはすぐには復旧しません。救護物資もすぐに届くわけではないので、食料や飲料水等は、三日分程度の備蓄が必要です。

表紙の「あいち防災通信」に非常持出品・備蓄品チェックリストを掲載しました。できるものから準備してみよう。

あつ地震だ！ その時どうするか

まずは身を守るのが大事です。丈夫な机の下に隠れるなどして安全を確保してください。揺れがおさまったら素早く火の始末や脱出口の確保に努めましょう。



準備をしっかりしておくことが大切だね



弥生町防災会(下記参照)防災訓練のお知らせ

今回ご紹介した各自主防災会の取組等については、自主防災会 取組 [http://www.pref.aichi.jp/bousai/zisyubou_shoukai/index.html] に詳しく掲載されています。

あいち防災通信 自主防

瀬戸市 萩山台連合自治協議会



会長の石原さん



地域の交流イベントと防災訓練を合体させた「はぎやま防災フェスタ」(左) 木工細工教室(右) 身近なものを使った応急手当訓練

萩山台連合自治協議会は、地域防災力の向上を目指し「はぎやま防災フェスタ」や「萩山台防災ウォッチング」という防災イベントを開催しました。会長の石原さんにお話を伺いました。

萩山台連合自治協議会の特徴 萩山台連合自治協議会は、自主防災組織が平成16年度に設立され、平成19年度から開催しています。普通の防災訓練では、住民には敷居の高いものとなりますが、お祭りの中に救急手当、家具転倒防止、炊き出し、パケツリレなどの防災コーナーを設けることで、子供から高齢者までが楽しみながら防災について学べるイベントとなっています。

また平成20年2月3日には「萩山台防災ウォッチング」を開催し、役員、防災リーダーのほか、地域の各種団体が一緒になって街の中を歩き、危険箇所等を把握するという活動も行いました。

活動の秘訣 「誰かがやらなくては」という使命感を持って活動しています。自主防災組織は地域住民にとって頼りになる存在でなくてはなりません。そうなるまでには苦労も多くありますが、その成果として地域の防災意識も高まり、今では住民の方から防災訓練メニューについて、新しい提案が出されるまでになりました。